環境啓発活動から

当所では、環境教育啓発活動の一環として、児童・生徒に対する夏休みの自由研究の指導があります。平成11年は4組の中学生、高校生が、河川の水質調査について取り組みましたが、いずれも生徒達の視点から河川水質環境について考えるよい機会であったと評価しています。今回、浦添市立港川中学校の比嘉牧子さん、与儀夏希さんが積極的な活動（調査項目として、pH、浮遊物質（SS）、溶存酸素（DO）など8項目）を行い、その感想を寄せてくれましたので以下に紹介します。

写真　生徒たちによる採水風景

「牧港川・源河川・国場川の水質調査」

私達はこの夏休みにたくさんの事を学びました。去年、家の近くにある牧港川がとても臭かったので、自由研究で牧港川の水質を調べてみる事にしました。しかし、牧港川と比較しようと思った玉泉洞は地下水であったため、今年は身近にある牧港川、水がきれいだと予想される北部の源河川、汚れていると予想される那覇の国場川を選定して「牧港川、源河川、国場川の水質調査」をテーマに研究を進めました。今年は去年よりもっと深く調べてみたいと思い、学校の先生に「施設の整った研究所で、実験の仕方などを教えてもらいながら研究を続けてみたらどうか」と勧められ、沖縄県衛生環境研究所でお世話になる事になりました。研究所では、たくさんの器具・実験道具などを貸してもらい、川の水質について深く調べることができました。最初は実験の仕方なども全然わからなかったのですが、水質室のみなさんにていねいにいろんな事を教わったおかげで、少しずつ研究の方法などもわかってきました。

私達が実験を進める中で感じたことは、まず採水のタイミングも考えなければいけない、という事です。適当に水を取りに行くのではなく、降水量などについての条件が大切だという事がわかりました。

次に、研究所に来たおかげでより正確なデータを出せたという事です。自分達だけでは、これほどまではできなかったと思います。

さらに、何度も研究所に足を運んでいるうちに、研究所の人達が沖縄県の環境の事について、私達の知らない所でがんばっている事を知りました。川の汚れや身の回りの細菌や海の生物について、こんなにもたくさんの人達が働いている事を初めて知り、とてもびっくりしました。私達の生活がうまくいっているのも研究所の人々の努力のおかげだと思います。一度牧港川に連れていってもらいそこでの仕事も見ましたが、とてもテキパキしていて、「やっぱりプロだなー、すごいなー」と感心しました。

今回の自由研究ではいろいろ教えてもらい、たくさんのデータをそろえる事ができたおかげで、那覇地区の科学展で金賞・環境賞、また県では優秀賞をもらう事ができました。こんなにすばらしい賞がもらえたのも、研究所の人達のおかげです。貴重な体験をさせてくれた研究所の人達にとても感謝しています。本当にうれしかったです。自分達の仕事もあったのに、私達のために時間を割いてくれて本当にありがとうございました。私達もまた機会があれば沖縄の環境について調べてみたいと思います。

（水質室）

◆◆

韓国済州道との相互交流研修

私たちの研究所では、17年前から国際協力事業団（ＪＩＣＡ）などの依頼で発展途上国の研修生を受け入れたり、外国へ派遣されるなど、多様な国際交流が日常的に行われています。私は昨年（1999年）10月に、韓国・済州道に県費の研修事業で派遣され、済州道の水環境問題などを学び、土壌流出に関する共同研究をしてきました。この事業は、1996年に沖縄県知事と済州道知事が共同声明を発表し、両地域が観光をはじめ経済、学術文化、人事などの交流を広く推進することになったのを受け、1998年から始まりました。初年度は済州道から日本語の研修を受けた公務員13名が沖縄県へ、昨年は韓国語の研修を受けた県職員7名が3週間の日程で済州道へ相互派遣されたのです。

日本で「県」にあたる行政組織が韓国の「道」です。済州道は、那覇市の北800kmに浮かぶ済州島を中心とした島々で成り立っています。面積は1,850km^{2}で沖縄県よりやや小さく、人口は54万人で沖縄県の半分以下です。韓国で一番高い海抜約2千mの漢拏山（はるらさん）が済州島の中央にそびえ、風光明媚な韓国一の観光地です。

現在、漢拏山は死火山ですが、昔は何度も噴火を繰り返し、島の地層は溶岩が冷えてできた多孔質の玄武岩と、その上に降り積もった火山灰土が幾重にも交互に重なっています。このため雨水の